

九州新幹線全線開業 博多駅ステンドグラス

「海の向こうから」

原画・監修：野見山 暁治

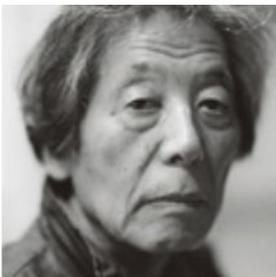


2011年3月12日、九州新幹線(博多～新八代間)が開業し、九州新幹線は全線開業となります。

博多駅の新幹線中央コンコースから、3月3日に開業した新しい博多駅ビル「JR博多シティ」への最短ルート(博多シティ3階改札口へ)のエスカレーターを登ると、目の前にみずみずしい色彩のステンドグラスが広がります。福岡県出身の野見山暁治画伯が、自身の子ども時代の思い出から、祖先から受けつがれてきた時の流れに思いを馳せて、故郷を描きました。

季節や時間に合わせて表情を美しく変えるステンドグラスが、博多駅を訪れる人々を迎えます。

サイズ:H2.5×W7.5m 素材:ドイツ製アンティークグラス 制作:クアール熱海ゆがわら工房



(作家の言葉)

海の向こうから伝わってきた文明の、目の前に広がる終着の風景。遥かな大陸、目に見えない遠いところから風が渡ってきて、この青い海が泡立つ。わたしにとっての故郷、祖先から伝わってきたこうした時の流れ。

野見山 暁治

1920	福岡県嘉穂郡穂波町に生まれる
1943	東京美術学校(現・東京藝術大学)卒業、応召
1952	渡仏(64年まで滞在)
1958	第2回「安井賞」受賞
1972	東京藝術大学教授に就任
1992	第42回芸術選奨文部大臣賞受賞
2000	文化功労者顕彰
2008	東京メトロ副都心線 明治神宮前駅ステンドグラス制作
現在	文化功労者、東京藝術大学名誉教授

作品設置箇所



◆お問い合わせ先◆

株式会社NKB パブリックアート本部
〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-1-3東京宝塚ビル
Tel:03-3504-2107 Fax:03-3504-2113
担当:山崎、石井 e-mail:y-yzaki@nkb.co.jp
URL:http://createjp.com/

野見山画伯による制作風景 —ステンドグラスで実現した野見山暁治の世界—



原画をもとに工房でカットされ、並べられたガラスの上に自ら筆を揮う野見山画伯。
 ガラスに焼き付ける事ができる絵具やエッチング剤など、専用の材料を駆使して描くことで画伯の力強いタッチや、微妙なニュアンスがそのままガラスに定着します。初めのうちは、普段使いなれている油絵具と勝手が違うためか少し戸惑っていらっ
 しゃいましたが、すぐに慣れ作業に没頭。ガラスとのコラボレーションを楽しまれました。
 こうして色ガラスの組み合わせだけでは表現できない野見山画伯の世界を、ステンドグラスにすることができました。

クラーレ

◇クラーレ(株式会社NKB パブリックアート本部が推進する環境芸術活動)について

当社では駅などのパブリックスペース(公共空間)をより豊かなものにするため、ステンドグラスや陶板レリーフなどのパブリックアートの制作を行ってきました。これまでに制作した作品数は全国で約480点にもなります。原画・監修を行うのは、平山郁夫、澄川喜一、絹谷幸二など日本を代表する一流の作家たちです。世界でも最高峰の材料を用いて制作されるパブリックアートは、永遠に色褪せることなく、公共空間に潤いを与え社会のより良い環境づくりに貢献しています。

“クラーレ”はラテン語で“創造”を意味します。



アンティークガラス



アンティークガラス色見本



釉葉見本 ピンク



釉葉見本 トルコブルー



釉葉見本 黄色



釉葉見本 赤



制作を行うクラーレ熱海ゆがわら工房